分枝 branching 22

http://branching.jp

ブランチング 23 発刊 2017 年　12 月 9 日
ブランチング 24 発刊 2018 年　3 月 9 日
ブランチング 25 発刊 2018 年　6 月 9 日
お問い合わせ・入稿先　system@branching.jp

EXPRESSION OF SEXUAL CHARACTERISTICS
2016 年 和紙、ガッシュ、

ナカムラマサヨ Masakudi Nakamura
1976 生まれ 兵庫県出身・東京都在住
ステンドグラス作家・画家
1998 年　神戸芸術工科大学 芸術工学部 視覚情報デザイン学科中退
2003 年　多摩美術大学 造形表現学部 映像表現学科 卒業
都内にあるステンドグラス・デザインガラス制作社勤務を経て 2015 年の秋頃からステンドグラス及びとドローイング作品を主体とした制作を始める。
平行して自身のステンドグラスとドローイング技法を生かした受注制作等もけう。
info@variantvox.parasite.jp
http://variantvox.parasite.jp/index.html

今後の予定：
「もいさなアート展 2017 New York」2017.10.26〜10.29/11.4〜11.5 @ Studio 34 Gallery(ニューヨーク)
「たいせつなもの展」2017.12.8〜12.22 @ 堺山画廊（東京・銀座）

▶※ナカムラマサヨは現在、来年開催予定である「シンビズム展」での大規模な展示を目指してクラウドファンディングに挑戦中です。
趣旨「CF 信州」内プロジェクトページをご覧の上、ご賛同いただける方、ご支援よろしくお願いいたします (10/18 まで)
CF 信州プロジェクトページ URL:https://cf-shinshu.jp/project/detail/247

細胞の再生する糧、着火点

CELL REGENERATION

ナカムラマサヨ

土手の上で眠りを引き摺り
川を渡る快速電車をただ眺め
表面を剥がされていくのは土手の時間軸にふら
下がる剥がれかけの看板の
家なき中年 ふらふら
めくってもめくっても表面
めくってもめくっても表面
諦めの関係を差別するならば
剥がす破るは目前を覆ひ不ライラ
気付いていないかもしれない
けれども
うぁぁうぁぁうぁぁんぁぁ
ほうちきがなっている
導う
気付かないフリをして快速電車に運ばれるのが灰の色
した空気汚れの時代土方を縛り返す仕組み
青天井の夜空持つ川の住人が昨夜冷水を浴びて肺をこじ
らせ線路のベッドで眠えて運ばれる快速
電車に轢かれて離れなれの肉のかけらとなったら
時間を気にして無関心を眼に貼り付けた社会人たちの
優越感はすっと育つ
ありふれた風景
移動する箱の中で
少なくとも自由のわたしのつもり
顔に大きな星を持つなが
よろめいた
つもりを轢きたい私の発芽があります
気付けたら
がんじがらめになっている
その外観
鉄橋下の少女は
処女の股却に感傷の暇無く
ひたすらに前を向いて足を出し続ける
ひとつの正解のためらまには
諦め正しい阿鼻叫喚の道
鉄橋下の少女は
雨を乗せた知らない草を見つめた
川の住人の下で
夜のわたしを入れた快速電車の走るトで
わたしの勝手な憶測
ただの表面
表面に放火をするのは
炎が燃えるのは
必死に燃えること為任蓋
家なき中年からだに
不毛が燃えていくく
オレンジの色素は
傷んだ神経を修復してくれるか？
ことは生まれる時間帯です
「動かない日常の中に溶け込んでいましたが焼き殺した
い欲望がこころを安らかの場所に誘ってくれました。
うもありがとうがとうをいうなまま早速視界がふわり
浮かびてしまあ人たちを燃やや包囲視界がふわりと
元気が湧いてくる今朝の風景さが噛みたい見常風」
知らないわたしは
往復している

cranky words shoogo / ミルク倉庫＋ココナッツ 2017
「表次の国ボス芸術賞 *the Award IN THE CORE 2017*」岐阜県美術館でのインスタレーション風景
協力：神村恵、河口遥、山田俊二、高橋ルニ郎、山岸武文　写真：梶原あずみ

道具のこと

Naoki MATSUMOTO 1986～

松本直樹

姿勢が悪いまスノコギリを引けば、素材はまっすぐに切断されず、稼働中の電動丸ノコを持つ手がブレれば、その刃はほじかれ、脳の締めがあまく肘がブレると、刃はまっすぐ打ち込めません。
マルティン・ハイデッガーはその著書『存在と時間』の中で「道具を使用し操作する交渉は盲目ではなく、それには固有の見方がそなわっていて、これが操作を導き、それに特有の即物性を与えている」といいます。

すなわち道具は、前提として（道具は事物にも関わらず）先験的に、使用する者を選ぶ権利を有し、それを使おうとする者は、道具自体と直接交渉せねばならなく、さらにこの限り合いがうまくいかなければ、使用者はその目的を見失ないかねかり、と者に文字通り「縛り目」に合うようにさせ「蓋しも道具そのものからその使用法を学ぶ、あるいは、道具との「交渉決裂」ない「破滅」を一度は経験したことでしょう。
手中で道具を「意のままに操っている」などという、われわれ人類の奢りとは裏腹に、実のところは道具の方が、人類に使われることを許容しており、さらには道具の方こそが、その道具の「果たすべき目的の達成」へと導ける人類を選んでいる、ともいえるでしょう。

そもそも、この果てしない世界を、すべての生物はそれぞれの固有な知覚をとおし、自らが働きかけることの出来得る「世界」として再構築しているといいます。
たとえばマダニは、嗅覚、温度感覚、触覚、という３つの知覚によって、彼らの「世界」を形成しているといわれます。嗅覚は獲物となる近くく哺乳動物の匂いを嗅ぎ分け、温度感覚は獲物の体温を捕捉します。そうして木の上に身を潜めたマダニは、木の下を獲物が通過するその瞬間――この知覚がすべて発揮され――身を投じ、うまいことと相手の体表に着地できれば、触覚をフル稼働させ、毛の少ない皮膚を探り当て、生き血へとありつくのです。
このような、外的刺激を拾い上げるそれぞれの知覚と、その知覚をとおし感受され、外部へと行為が誘発されるという連関、つまり主体と環境との関係を、生物学者であるユクスキュルは「環世界」と名付け、ハイデガーの思索に影響を与えました。

マダニのように、われわれ人類も「環世界」を持っています。しかし、われわれが道具と一対となったとき、人類の「環世界」は道具が指し示す、別の連関へと転移します。金槌と釘（のみ）を手にすれば、自らの腕力で岩石をも砕けるように、道具違から接々な世界への認識を教授され、成すべき目的をさえもうえられるのです。つまり人類の「環世界」は、道具の「環世界」へとすり替えられてしまうのです［※註］。
さらには――主体と環境との関係が「環世界」である――だとすれば、道具によってわれわれの「環世界」がすり替えられてしまうとき、これは同時にわれわれの主体をもすり替えてしまうことを意味します。もしかすると、われわれの謳歌するこの文明は、人類の体を乗っ取った道具たちの「主体」によって形成されたものなのかも知れません。

［※註］そもそも「道具」は、「道」――つまり、ものごとの「道理」を「具（そな）えたもの、と名付けられています。加えれば、英語で一般的に道具を指すとされる「tool」という語は、ゲルマン祖語の「tōlan」が語源になっており、これは「（手で掴って使う）道具」を意味するといます。
インダストリアルデザイナーである栄久庵憲司によれば、道具のドメインには２つあり、それは作用具である「棒」と受容具である「器」であると、その著書「道具考」で指摘します。ともすると、原義的に tool は作用具のみを指し、本来「道具」という語の持つ意味を拾いきれていないようにいえるでしょう。

●本文は、9 月 7 日より開催される「Nagano Alternative 2017_02 Naoki Matsumoto」によせたステートメント「道具のこと（ステートメントにかえて）」に加筆・編集したものもである。

ナガノオルタナティブ 2017_02「プリペンション」松本直樹展
2017 9/7,8,9,11,12,13,14,15,16,17 – solo 10 days –
松本直樹 x 丸田恵子クロッシング 9/18,19,20,21,22,23 – solo 6 days –
＊9/17. 公開クロッシング（作品セッティング）12:00〜17:00 ＊500-
@ FFS_Warehouse Gallery
▶ 2017 9/23 sat・16:00〜 ギャラリートークディスカッション

松本直樹 Naoki Matsumoto　美術家
1982 年 長野県生まれ
2007 年　東京芸術大学 美術研究室 修士課程 卒業
2004-2007 年　近畿大学 国際人科学研究所 東京コミュニティ・カレッジ　四谷アート・スタディーウム 研究員
2013 年 4 月 – 長野美術専門学校 講師
http://matsumotonaoki.com/wordpress/

未生の泥

Kazunori KITAZAWA 1936～

北澤一伯

自が黒か。
悪意を発動して、おのれの黒さを隠微する言葉。
それは綺麗な言葉、本当は綺麗である事は無いのであるが、あまりにも多く、その言葉を語る人の顔に生ずる表情の共通項を、私は観たのである。それぞれが、それぞれの綺麗な言葉を、私に語る個人的理由を持っていると、表情の共通項は語る。そして私は、それぞれの顔に眼をむけると云って、綺麗な言葉を語る人の世界観を、その表情や身振りのこなし方に観てとるのである。
被等は、この正当性を主張する事に明らかに呪われてしまい、共通して真実を語る口を封じられているにもかかわらず、私に否定される事を頑に拒んで、私を黙殺する。

この綺麗な言葉に立ち向かうにはいくつもの方法があり、さらに克服するにはさまざまな方法がある。そして、そうした方法は、いずれも、そうした言葉を封じ込める唯一の道は、私自身が意志を持って、今ここで、自分の内部でそのような言葉の鎖われを窟息させる事だ、という真理の一面を示しているにすぎない。

綺麗な言葉によって黙殺されるという事態を受けとりつつ、黙殺の植のひと突きから、自滅を防ぐものは何であるのか。
私は、綺麗な言葉の由緒と根拠を調査して、その真性の不正を暴く事が、私の自滅から再生へむかう出口のひとつだと考えている。

ある種の不完全な物が、何かの意味の動機づけによってかけがえのない物になるということを、神秘主義的な秘術だと安易に誇えるわけではない。また、手負いのシャーマンが、何かの物体に意味と物語を付与する事で、治癒者の治癒に関わったとしても、神秘主義的な秘術だと安易に断定できるわけでもない。
私は、それが起こる事は知っている。しかし、どのようにして起きるのか、私は知ろない。
「善良な人がみずからの意志で他人の邪悪性に刺され・それによって破滅し、しかしなお、なぜか破滅せず・・ある意味では破滅されるが、それでもなお生きつづけ、屈服しない、ということを私は知っている。」（「平気でそうを つく人たち」 M・スコット・ペック　草思社　p330）

物質語。鉄の断片、鳩の羽、花の種子、水晶、・・・。
本来、物には意味はない。しかしなお、なぜか破滅せず、いくつかの言葉がふさわしい必要性によって発見され、語られて行く。

被等の使う綺麗な言葉は、物も人も用途で見ている。

「用途であるのが国家です。かっての戦時体制では鉄も木材も［供出］させられますね。」（「眼谷國士のシュルレアリスムの目」 週間金曜日　8/18 2017）

このようなことが語られる時、そして予感されたことが周到に準備された計画であるとかすかに感じられる時、私が観ている場所において、場所の力に、わずかながらも変動が見られると思われる。未生の泥の前に、1930 年代の戦前の男の上に、私は存んでいるのである。

photo by Kazunori Kitazawa

タイトル：　未生の泥
素材：　鉄塊、石、植物の葉、泥水
場所：　長野県松本市女鳥羽川
行為：内面世界インスタレーション

北澤一伯 Kazunori Kitazawa
1949 年長野県伊那市生れ　美術家

発表歴

1971 年から作品発表。74 年（台座を失なった後、台座のかわりを、何が、するのか）彫刻制作。80 年より東京都新宿区の「場所」論をテーマにインスタレーション「回廊路（いこーろ）」制作。94 年以降 2008 年 12 月までの約 14 年間、廃屋と旧家の内部を「こころの内面」に見立てて美術館空間に見立て、ものごとで　死んだかうさぎ」連作を制作。同期間、長野県安曇市美麻にある民家に住みながら、その家の内部を「こころの内面」の敷き方に従って改修することで、「こころの間」をトランスフォームする「ドーム」連作「残映の家」を制作。
その他、彫刻制作の手法と理論による「距離観」連作として
1998 年下伊那郡高森町「本能寺子別館 36 時間プロジェクト」がある。地域美術界に対する新解釈として「いばるな物語」連作。
戦後の都市近郊における農業事情を扱う「植林空間」。
また、生涯で体験した山林の境界や土地の場所をめぐる問題を、「後（さかい）論」として把握し、C02 と物質化を試みて、レンジキラ（失地奪還／全てを失った場所で、もう一度たいせつなものをとりもどす）プロジェクトを持続しつつ。
95 年 NPAP（95 年に参加したセルジ・パイ（仏）のパフォーマンスから受けた印象を展開し、03 年より「セルジ・パイ国際シリーズ」を発表している。2009 年 9 月第 1 回所沢ビエンナーレ美術展引込線（所沢）
4th 現代と美術展 2009 アート ゆうちざわ土庫（岩手県花巻市）
2012 年 6 月「池上英泰作品展 No5　刺激の風景」（長野県伊那北高校重ヶ丘会館）
7 月「くりかえしより対する世界でないほはくりかえしあらわれる 固有時と固有地」連作 No 7（長野市松代大本営地下壕跡）
2015 年 Nine Dragon Heads（韓国）のメンバー企画として第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に出展。
同年 7 月、Nine Dragon Heads に参加。韓国大邱市に Void house(なにもない家) を制作した。
2016 年 6 月「いばるな物語」連作の現場制作。　伊那北高校重ケ丘会館
2016 年 10 月個展「　段丘地　四諦　折帯　平節」アジフォルメル中川村美術館（長野県上伊那郡中川村）

2017 年 11 月：ナガノオルタナティブ 2017_05 北澤一伯展 開催予定

旅先のおじさん

Tatsuki TSUKADA 1986～

塚田辰樹

旅先では変なおじさんとの出会いがある。ここでいう「変な」とは、個性の強いおじさんのことである。思い出すとその場の空気までありありと思い起こせる出会いを、少し紹介したい。

〈岡山のおじさん〉

岡山県の瀬戸内海に位置する島々の一つ、直島でゴールデンウィークを満喫した帰り、最寄り駅でのことである。島と本土をつなぐフェリーを降りると、徒歩数分の場所に宇野駅がある。行き交う人々は行楽シーズンにも関わらずまばらで、駅のホームでも電車を待つ人々はさほど多くはない。みな関係ないものの同士は一定間隔をとりながら、各々に電車の到着時刻を案っていた。駅の線路の数もさほどなく、その脇の金網に沿って道路が走るが、人通りは少ない。
そろそろ時間かと椅子から立ち上がり、電車の迫る気配がないかと遠くを見やった。
「おーい」
不意に声が聞こえてきた。だれか別の人に用かと気にせずスマホを眺めていたが、再び
「おい」
周りの人も自分のことかとチラチラと顔を上げたり、隣の人を見る。
声の主は、ホームの正面、10m ほど離れた金網にもたれかかっているおじさんだった。上下の衣服とも淡い色調で、部屋着のまま出かけたようだった。
「おーい、けぇん（帰る）のか？」
とこちらへ呼びかけている。どうやら私に言っているような気がして、思わず振ってしまった。周りの人は、変なおじさんに話しかけられたのは自分ではなかったことに、安心したようにスマホへ目を戻していた（ような気配がした）。
「おれもな、けぇんだよ。」と自分を指差して声を少し強める。
「で、けぇったらよ…これだよ…」
「これだよ」の時、手でお猪口を傾む仕草をして、口へ持っていく。要は晩酌待っているらしい。
赤の他人に夕方の予定を伝える意味はわからない。が、呼びかけに応じてしまった以上、何かリアクションを取らないといけない。曖昧に頷こうとすると、ちょうど電車がホームへ入り、金網へもたれたおじさんの姿を視界からかき消した。
直島は素晴らしい場所だった。芸術と生活の共存を見て、気持ちのよい思いをした帰りだったのだが、最後の思い出が、晩酌予定の変なおじさんになってしまった。

〈伊豆大島のおじさん〉

伊豆大島へは、三原山ハイキングへ出かけたつもりだったが、あいにくの天気で断念した。本来なら悠然と広野を単独で進み、その夜のお酒も格別だったろう。妄想ばかりが先行し、天気予報が見事に的中することなど考えず、着々と準備だけしていたのだった。
霧と強風に阻まれ、行き先をなくした午前のことは忘れ、ほかに行く宛はないかと観光マップを眺めた。どうやら貝の博物館「ばれ・ちめーる」という暇つぶしになりそうな場所があったので、そこへ行くことにした。
その博物館には、海の貝も陸の貝も展示してあり、とにかく「貝」名のつくものはなんでも揃っているように見えた。かなり沢山の種類の貝が、ブラックトンのように小さな姿から成長するまで、すべての大きさを揃えていた。入館者は私と、ある夫婦以外はとんとしんとしなかった。
博物館を見終わり、まあ好きなんだろうと、ふわっとした感想をいだきつつ、早くも予定が終わってしまったことに落胆しながらバスを待っていた。あの夫婦も一緒だった。
「どこまでいかれるんですか？」
不意に話しかけられた。
ひとまず港まで戻って作戦を立て直すことを告げると、大島ツバキ農園という場所を紹介してくれた上、そこへ行くには港を経由するのです」聞いていたと、港へ到着する次のバスの時間も調べてくれた。そんな親切な夫婦、特におじさんは、この貝の博物館がいただく気にふったようだった。
「陸生貝の所蔵数はここはもしかしたら日本一なんじゃないかな。こんな素晴らしい場所にほとんど人が入らないでしょうう？なぜでしょうね？」
自分の感覚との温度差がすごい。おじさんは見た目がダルマのようにふくよかで、人懐っこい性格。知い白髪でジャージを着ていた。奥さんは同じくふくよかで、褐色の肌に黒いメガネをした、反駁のせの字のようだった。「弾生貝」という貝言う熱心な様子から気になり、なぜ詳しいのか聞いてみた
「詳しいも何も私は昔、環境庁の命で、小笠原へ行ってたんですよ。生物については多少詳しいんです。」非環境庁かどうかはうろ覚えで正確には失念した。
「あなたくらいの年だったかな、奥さんとしばらく住んで子供もいたんだけどさ、そのとき住民に指示しながら仕事してて、ミバエってハエを撲滅したんですよ。」
「そうそう、撲滅したのよね。」と奥さんが同意して、つづける
「その後またしばらく住んで…そのあとはアフリカマイマイってのがいたんだけど、これも撲滅したのよね。」
「撲滅したんですよ。」とおじさんが同意する。
撲滅という言葉が頭をぐるぐるまする。どうやら貝者ではないようだ。政府の環境保護対策に直接関わって、そのプロジェクトを成功させた人と、いま同じバス停でのんびりバスを待っている。何度も呼吸したり話し合ったりしたのだろうか、くしゃくしゃのスケジュールを奥さんと眺めている。天候に悪まれなくても、この夫婦に出会ったことが思い出になってよかった。
旅先では、2 度と会いたくない人に出くわすこともあるが、こういう変なおじさんとの思い出がその思い出も優しくしてくれることがあるのだ。

塚田辰樹　Tatsuki Tsukada
1986 年長野市生まれ
HC市在住
DTP オペレーター /DTP デザイナー

Under the sky of the mountain / fair of the uncophisticated shape 2017 / 182117 Digital Photograph

磐床蹟睡

Tomoe KAWAMURA 1985～

川村朋子

二十五万年前から五万年の間縄模様に縁り返された複
式火山山麓から噴から外輪と内輪が為の重層を西すで
比べ紀で高の高さ、内輪が為の高さ、西と東とで
比べれば安定ならいない。外輪が為の高さ、西と東とで
たかしこ部分の崩壊も即ほんのりとしたものだ。
二千メートルにやや足りない標高の頂が転じて登り山
を結び、気象に恵まれ山すする者は多くはないが絶えることはな
い。西側の岩場火山の噴火より隙を前に、マグマの貫入を受けて隆
起した急流の為の岩場の為の為の為の為の為の為の為の為の為の為
の為の為の為の為の為の為